

# 能登半島地震 広がる支援の輪

## 震災から1ヶ月半 西高生徒会、県内高校生東ね被災地支援へ

# 千西一遇

第109号

発行

2024年

2月15日 (木)

上田西高 校  
新聞委員 会  
編集 局

編集局長：田村さくら

新聞委員長：金井 茉優

大田すみれ

佐藤 雪路

小林 さら

レイアウト：田村さくら

1月1日、石川県能登半島を中心に震度7の大地震が起こった。被災地では大きな被害が確認されている中、上田西高生徒会では何か支援ができないかと話し合い、今できることとして募金活動が行われた。さらに全県での活動も働き掛け、共同の募金活動を上田駅前でも実施した。また、市内の高校に呼び掛け、活動の幅は大きく広がっている。そんな生徒会の活動や被災地の状況についてを、市役所や震災を間近で体験した西高生の声とともにまとめた。

(金井 茉優)



上田駅前で行われた上田市内5校(上田西高校、上田染谷丘高校、屋代高校、上田東高校、上田千曲高校)による合同募金活動の様子

## 冬休み明けにいち早く募金活動開始 2月には市内五校と共同で実施

冬休み明け直後の1月10日に生徒会役員とJRC部により能登半島地震支援募金活動が行われた。JRC部の赤羽波部長は、「現地へ行くことはかなり難しいので、募金で少しでも支えられたら良いなと思った」と話す。生徒会役員やJRC部員の声掛けに多くの生徒、先生方が応援。赤羽部長は、「支援への手助けになるだけでなく募金活動を行っている中で、多くの全校生徒や先生方が協力してくれとても感動しました」と話し、「協力して下さった方が想像



市内5校による共同募金準備のため、上田染谷丘高校、上田東高校が来校した

## 文化学園も協力を表明

1月8日に文化学園長野高等学校と生徒会交流を行った。グループに分かれてお互いの



3学期始業式直後の1月10日、上田西高校では生徒会とJRC部の呼び掛けにより、いち早く募金活動を行った

この提案について文化学園長野の橋本玲奈生徒会長は「文化学園長野としても何か活動をした」と考えていたと話し、「是非一緒に活動したい」と協力の意思を見せた。昨年からの関わりのある文化学園長野に協力を求めることで全県規模での活動開始へ一歩近づくことができた。(金井 茉優)

上田千曲高校の生徒会役員が集まった。2箇所に分かれ、募金活動の準備で集まった際に作成したフラカードや横断幕を使って呼びかけを行った。

(佐藤 雪路)

## 山下会長の呼びかけで会議開催 西高に東北信から四校が集まる

上田西高生徒会では校内の活動にとどまらず全県規模の支援活動を牽引している。最初の活動として、山下智也生徒会長の呼びかけに反応した上田高、屋代高校、上田染谷丘高校の生徒会との会議が上田西高校の生徒会室で行われた。

会議は山下会長が中心となって進め、支援の具体案などが話し合われた。「今現在では難しいが、いずれはボランティアを派遣したい」という意見には多くの賛同が得られた。最初はぎこちない雰囲気であったが、

(金井 茉優)



高校生ができる被災地支援のあり方を考えるために、西高の生徒会室に東北信4校の高校の生徒会役員が集まった

# 帰省中の西高生 震災を間近で経験

## 三ツ井さん 「初めて命の危険を感じた」

元日に発生し最大に滞在し地震を間近で体験した生徒がい

登半島地震。地震が起きた当時、西高生

石川県に帰省していた整美委員長の三ツ井さん



写真提供=上田市役所危機管理防災課、三ツ井優さん(写真右下)



被災した石川県輪島市内と地震発生直後の金沢市内の様子

「初めて命の危険を感じた」と当時を振り返る。すぐに津波警報が鳴り、居合わせた人々は係員の指示で学校やショッピングモールなど安全な場所へ身を寄せた。「柵にある商品が落ち、道路は所々崩れていて悲惨な光景を見た」と続けた。

また、新潟県上越市に帰省していた新聞委員会編集局長の田村さくらさんは「私がいなかった場所では避難もせず大きな被害はなかった」と安堵した表情で話した一方、「今まで経験した中で最も大きな地震であり大きく揺れてかなり怖かった」と振り返った。



三ツ井さんは震災を経験し「防災について考える重要性を身をもって感じた」と話した。災害は経験することで重要性を認知することも多いかもしれないが、起きてからでは遅い。日頃から防災について関心をもち、準備することが大切だ。

(大田 すみれ)



2011年の東日本大震災の際も上田西高校では被災地に赴き、ボランティア活動をを行った。主

導したのは当時D&D部顧問で現生徒会主任の森下暁先だ。

当時、岩手県と関係があった両親と共にボランティアに参

## 上田市役所へ取材

令和6年能登半島地震を受け、上田市での被害状況や支援活動について、上田市危機管理防災課の山田和広さんに取材を行った。

上田市は、現在長野県合同災害支援チーム「チームながの」の一員として支援を行っている。上小地域の4つの市町村で1チームとして動いており、職員28



上田市内の被害状況や被災地支援について話してくれた上田市危機管理防災課の山田和広さん

### 上田でも支援開始

上田市内での被害は、道路の陥没が2箇所確認されたという。元々陥没しやすい状態であったため地震の影響がどうかは確認できていない。

上田市内では、現在長野県合同災害支援チーム「チームながの」の一員として支援を行っている。上小地域の4つの市町村で1チームとして動いており、職員28

## コラム 過去から続く上田西の被災地支援

2011年の東日本大震災の際も上田西高校では被災地に赴き、ボランティア活動をを行った。主

導したのは当時D&D部顧問で現生徒会主任の森下暁先だ。

当時、岩手県と関係があった両親と共にボランティアに参

名を数チームに分け現地派遣し、1チーム1週間ごとに活動を行っている。更に、給水の支援、建築物の応急危険度判定ができる資格を持った職員数名を派遣した他に災害廃棄物の処理や受付も行っている(1月22日時点)。

上田西高校でもいづれは団体が被災地に赴きボランティアを行いたい考えがあることを話し、アドバイスを求めると、「助けてほしい気持ちだけでなく、被災者に今必要なものを見極めることが大切。物資を届けることはありますが、現地で物資の仕分けや、被災者にとって必要になってしまいうなりの行き違いにならないことも大切」と話してくれた。

今回の大きな災害を受けて、改めて住んでいる地域のハザードマップを確認し、災害に備えた準備をしておくことが大切だと考えさせられた。今後近い将来に、高い確率で大きな地震が発生するということもデータもある。もしもの時に適切に対応できるようにするために、日頃から防災知識を蓄え行動することが必要になってくる。

(佐藤 雷路)



東日本大震災のボランティア活動を行う西高生

東日本大震災から13年が経過したが、上田西の生徒達の被災地に対する思いや支援活動は今も昔も変わらない。

(小林 さくら)